

アナログ再構成後の活用(36)
—ベートーベンを聴く(35)—

1. 始めに

前報(35)に引き続き、ベートーベンのアナログ盤を試聴していきます。

2. アナログシステムについての改善の試聴方法

試聴は LINN LP-12 のシステムでアクセサリ関係も最新情報に基づいて実施し、要時 Garrad 401 のシステムも加えます。これまでの状況は、オーディオ資料室の再生経路と変更点 4 に要約しています。なお、バイワイアリングのスピーカーケーブルにケーブルチューナーが装着されています。さらに、追加の変更点については、オーディオ資料室の再生経路と変更点 5 とオーディオ資料室の再生経路と変更点 6 に要約しています。

再生経路は、LP-12 のアームの調整も終わりましたので、次のとおりです。

LP-12→AACU-1000→Stage1030→Brooklyn DAC+→AACU-1000→

P&G フェーダー→300B シングルアンプ

今回も引き続き、ベートーベンのピアノ協奏曲を聴いていきます。

今回取り上げる盤は、次のアナログ盤です。

PHILIPS X-7694

ピアノ協奏曲第 5 番変ホ長調作品 73 「皇帝」

アルフレッド・ブレンデル ベルナルド・ハイティンク指揮ロンドンフィル

3. アナログシステムについての改善結果の試聴結果

ブレンデルのピアノが実に美しく、流れるような抒情性すら感じさせます。ハイティンク指揮ロンドンフィルも緻密な響きを聴かせてくれます。前報(35)の剛のアッシュケナージに対して、柔のブレンデルとでも言えるベートーベンです。

4. まとめ

アナログシステムの再構成の結果、ブレンデルの美しいピアノとハイティンク指揮ロンドンフィルも緻密な響きを聴かせてくれるようになりました。

以上